

第10回本町田ひなた小学校 新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2025年2月17日（月） 9：31～10：44	
開催場所	本町田東小学校 家庭科室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	中尾委員、渡辺（和）委員、渡邊（康）委員、高柳委員、平本（江）委員、安藤委員、手塚委員、野口委員、湯目委員、小原委員、平本（純）委員、若月委員、大波多委員、◎清水委員、○杉本委員、大谷委員 （◎：会長、○：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、企画政策課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

清水会長

本日もお忙しい中、お集まりいただき、感謝申し上げます。

本町田小が2月14日（金曜日）、本町田東小が1月31日（金曜日）に閉校式を無事に終え、そして、ある意味では3年後の町三小にバトンタッチという形になるが、この会、今年度最後と言っても、まだまだ途中になる。

ただ、本日が年度内最終回なので、まず、学校教育部長よりご挨拶申し上げます。

はじめに【学校教育部長挨拶】

学校教育部長

本日はお忙しい中、新たな学校づくり基本計画推進協議会にご出席いただき、感謝申し上げます。

本日の会は今年度最後の会であって、また、本町田東小学校と本町田小学校の統合前、最後の協議会となる。

これまで皆様方と一緒に準備を進めてきた本町田ひなた小学校が、いよいよ、この4月に開校する。

統合に当たっては、2021年12月からの全12回の新たな学校づくり基本計画検討会での話し合い、そして、その後の本協議会にて、2023年5月から丸2年にわたり、通学路等、様々な事項について具体的な検討を行っていただいた。

その結果、2025年度に向けての通学路案や本町田ひなた小学校の校歌・校章が決定するなど、本町田ひなた小学校の開校を迎えるための準備ができた。改めてお礼を申し上げます。

11月の協議会でもご説明させていただいたとおり、これからの町田市の新たな学校づくりは、「地域活用型学校」と称し、学校教育の場や、身近な避難施設としてはもちろん、地域の活動拠点とすることも考えている。

また、この本町田地区については、2028年度の町田第三小学校の合流もある。

そういった観点からも、委員の皆様には引き続き、通学路の検討等、3校での新校舎開校に向け、そして、町田市内における「地域活用型学校」の先駆けとして、今後、ご意見を頂戴できればと思っている。

これからも引き続き、皆様方のご協力を重ねてお願い申し上げ、お礼とさせていただきます。

1 第9回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課（資料1 説明）

2 報告事項

（1）本町田ひなた小学校の開校について

委員（資料2-1 説明）

新たな学校推進課（資料2-2 説明）

（2）本町田ひなた小学校への歴史の継承及び引越しについて

新たな学校推進課（資料2-3 説明）

口頭で説明を補足させていただくが、本東小を卒業した中学生から学校のほうへ、校舎を取り壊す前に校舎内を見て回りたい、お世話になった先生に挨拶がしたいといった声や、地域の方からも、最後に校舎の写真が撮りたいといった声が学校に届いている旨、清水校長から教えていただいた。

こうした声を受けて、学校の先生方に、3月25日の修了式の後に校内の見学等を希望する中学生の対応をしていただく予定であると話を伺っている。

また、本東小解体前の25年4月上旬には校舎の一部を開放し、地域の方々が校舎の内外を見学することができるような場を設ける方向で現在調整を進めている。

詳細が決定次第、追って協議会委員の皆様にもメール等でお知らせさせていただければと思う。

あわせて、こちらも口頭での補足となるが、町三小における歴史の継承については、この後にもご報告させていただく跡地活用と関連するものとなる。

町三小の校舎内外の様子については、本東小、本小と同様、今後デジタル保存で記録する予定だが、特に100周年記念碑といった物品の整理についても、引き続きこの協議会における検討・報告事項として取り扱っていく。

委員

少し補足だが、なぜ今の中学生は3月中に学校のほうに来てもいいということにするかということ、中学生が、まだ担任が学校にいる。これが4月になると全員教員は異動していなくなってしまうということもあるので、見に来るのは校舎内の思い出の地であろうと。ただ、今の中学生はプラス教員に会いたいという子がいるという

ことで、今の中学生は25日の修了式あたりを目安においでと。校舎の詳しいところは4月にやるよということを行いながら、先生とのお別れをちょっと何分か時間をつくろうということで、中学生については3月を予定しているということになる。

(3) 町田第三小学校の跡地活用検討について

企画政策課 (資料2-4 説明)

(4) 新たな学校づくりを踏まえたこれからの学校を考える授業の実施について

新たな学校推進課 (資料2-5 説明)

(5) 新たな学校づくりに関する取組内容等と2024年度における事業到達目標について

新たな学校推進課 (資料2-6 説明)

(6) その他報告

新たな学校推進課 (資料2-7 説明)

(2)「路線バス乗り方教室の実施について」、資料への反映ができていないが、10時からの回には15家庭、11時からの回には7家庭、合計22家庭の方にご参加いただいたので、ご報告させていただく。

清水会長 最後に、今、事務局から報告のあった2月6日、3校の子どもたちがひなた小の校歌を歌った際の音声を流すのでお聞きいただければと思う。

[本町田ひなた小学校校歌]

清水会長 以上で、本日の議事は終了となる。
今年度最後ということで、皆様から一言ずつ頂戴できればと思う。

委員 今お話にもあったように、2年生だが、学校統合に関わりを持つ、そういった行事に参加することで、三小は3年後ではあるが、徐々に実感が湧いてきているんじゃないかと思う。

次年度以降は高学年が、直接統合には関わりない学年と、1から3年生は、今度は直接関わるという、ちょっと分かれがちになってしまうが、そういった分断がされないように、学校全体で学校統合に向けて前向きな気持ちを持っていけるよう、そんな準備をしていきたいなと思っている。

委員 私も先日、交流授業の場にいさせていただいたが、今の声でも、多分皆さん感動されたと思うが、直接聞いたときの子どもたちの元気な声が本当にすてきで、司会席にいさせていただいたが、うるうるしちゃいけないが、すごく今後が楽しみだなと、とても思った。

その後も閉校式典を2校とも出させていただいたが、やっぱり校旗返還というのを見ると、とても心がすきすきするというか、ちょっと悲しい気持ちになるというか。ただ、子どもたちが閉校式典でも、どちらの学校もすごく前向きに取り組んでいるというのが見えて、新しい学校ができるのがとても楽しみだなと思っているところである。

委員 私の子どもは上の子が3年生なので、上の子が直接新しい学校に通うということではなく、最後の卒業生になると思っている。多分、卒業すると寂しいだろうなとか、自分が通っていたところなくなるのは寂しいだろうなと想像はするが、それ以上に新しい学校がうらやましいなと子どもたちが思えるようなところを引き続きつけていけるように、少しご協力できればいいかなと思う。

委員 もう4年目になるが、またこの先も末永くこちらに関わらせていただくが、うちも4人子どもがおりまして、三小の閉校のときには子どもが1人もいない、1年の空白があつての、統合したときの1年生で4番目が入ってくることになるので、いろんな視点からひなた小サポーターズのほうにも関わらせていただき、来年も承認いただければPTAをお引き受けすることになっているので、協議会委員でもある本東小のPTAの方と、ずっとずっといろんな意味で支えていけたらなと思っている。

委員 先ほどの歌声、とてもすばらしかったと思う。私も実は14日に2年生の公開授業があり、体育館で実際、聞かせていただいて、本当に副校長先生がおっしゃるように、泣いちゃいけないが、もう涙があふれてきてしまって、私ごとだが、町田第三小学校卒業生なので、やっぱりなくなってしまうこととか、校歌がなくなってしまうことがすごく悲しくて、すごく複雑な思いでこの委員をやらせていただいたというのが実際のことだが、ひなた小学校の校歌を聞いたときに、もうその気持ちが本当に一瞬で消えてしまうような希望に満ちあふれた子どもたちの表情、歌声を聞いて、何も心配ないんだなというふうに、もう希望しかないんだなと、希望に満ちあふれた子どもたちの顔を見て、私も本当にすごく安心をしたところである。とてもすてきな校歌だと思う。

委員 私は先週の本町田小学校の閉校式に出席させていただき、そのときに校歌を初めて聞いた。本当にすばらしくて、校歌もよかったが、校章を前に、ああ、これとこれに私は関わらせていただいたんだという、とても誇らしい気持ちになった。

子どもたちも、案内してくれた6年生とかはもう新しい学校には関係ないが、ちょっと残念だなという話はしていた。統合で一番いいのは、やっぱりお友達が増えることと言っていた。その子もとても本当に一生懸命やってくれて、最後の卒業生ということで、本当に誇りを持って、最後の閉校式、とてもすばらしかった。

私も、三小がなくなってしまう寂しさよりも、わくわく感が超えるようにこれからも活動していきたいと思う。

委員

先日、本小の閉校式に出席させていただいた。そして、校歌を初めて聞いた。校歌の面で一部変更を歌詞のところでお願いし、それが実現でき、とても流れのいい、温かみのある歌詞に変わったこと、本当にほっとしている。

一部変更したところ、とても気にはなっていた。言わなきゃよかったかなと思ったが、かえって地域の名前が出るよりも、この歌詞の流れがとってもよかった。もうそのことに本当に喜んでいる。

委員

うちも今、6年、5年、3年、年長と4人子どもがいて、うちの子どもたちの会話は、俺は最後の卒業生、2番目は、私は最初の卒業生、3番目の子は、本小の今の校舎のあるところで過ごす最後の卒業生、一番下の子は、最初の入学生みたいな感じで、何を自慢し合っているんだろうという感じで、でも、すごくわくわくしたり、こういう大きな節目に立ち会えているという実感がすごく湧いているような気がする。

実際のところは、通学路をどうするか、どっちの道を通るとか、バスに乗るとか、まだ決め切れていないというのが現状だが、それも始まってみたら子どもたちの適応は早いだろうし、その都度やっぱり前向きにとらえて進んでいく力をつけるチャンスでもあるなと思って準備していきたいと思う。

この協議会に関しては、本当に皆さんがおっしゃっていたように、校歌を決めるときの話合いが私も忘れられなくて、すごく思いがあふれて、でも、着地点をどうするかみたいなところで本当にいい形にまとまったなというのが、すごく印象に残っている。

あと、やっぱり東小を卒業した子たちがそのまま薬師中に行けるというふうに制度を整えてくださったこともすごく感謝で、うちの2番目が今度6年になって、ひなた小に行くのが1人だけになる。クラスの中で1人だけだが、1年たったら薬師中でまた会おうねというのをもう言っています、そういう約束ができたというのもすごくありがたかった。

保護者組織のほうも今、協議会委員でもある三小のPTAの方と、一緒に動いていて、ひなサポという新しい形で、本当に自分の意志でやろうという立候補制にしようというふうに整えて募集をかけたところ、最初5人とかで、どうしようと思っていたが、現時点で10人の方が手を挙げてくださり、多分、今後また、まだ登録していないけれどもやるよと言ってくださっている方もいるので、すごく前向きな形で、

保護者も前向きにやっているよというのを子どもたちに見せていけるというのを引き続き取り組んでいきたいなと思っている。

委員

私自身、学校のこと、子どもたちのことも何も知らずに参加させていただいて、自分が勉強させていただいたことが、本当にこの会の自分にとって大きな得られるものになった。

先日、本町田小、東小、両校の閉校式に出させていただいたが、本町田小の閉校式のときに新しいひなた小の校歌の披露があったが、それを聞きながら、先ほど他の委員からも話がありましたが、そういえば、あの詞の意見、この詞の意見、いろいろあったななんていうことを思い浮かべていたら、何か胸にぐっとくるものがあり、本当にいい曲にまとまってよかったなと思っている。

委員

本町田東小学校の学校協力者ということで、去年の4月から、ちょうど1年たつところで、委員をやらせていただいている。同時に、隣の開進幼稚園の理事長をしており、隣で着々と準備が進められていき、そして、とうとうこの間は閉校式ということで私も参加させていただいた。50数年たったということで、私自身も開校したときのこともよく存じ上げているので、校庭がまだまだ工事中のところもありまして、団地もまだ立ち上がってなくて、工事車両なんかが入っている中で本町田東小学校が開校した。あれからもう50何年もたち、そして、歴代の校長先生方が頭に浮かんで、本当にもう50何年もたっているんだという、歴史の流れを感じた。

今、町田の教育の学校の歴史の転換点。そこにこういう形で携わらせていただいたことを本当に誇りに思っている。これからまた新しい学校が出来上がるのを楽しみに見ていきたいと思っている。

委員

今年度から参加させていただいて、当初は、うちは、自宅からの通学路を考えて七国小を考えていた。だが、今年度、ご縁があってここに参加させていただき、皆さんの熱心な思いだとか、市の方の真剣な姿にすごく心が動きまして、春から真ん中の子が本町田ひなた小に通うことになっている。それに関しては不安要素とかもまだあるが、すばらしい校歌と校章、今日の校歌を聞いて、ぐっときてしまって、すごく感動した。

あと、この間、東小の式典の、上の子が6年生で今度卒業で、学校がなくなってしまふというのがやっぱりすごく寂しい思いで、この間、校旗返還する校長先生の姿を後ろで見ている、すごくじーんと、寂しい複雑な思いを感じて見ている。

ただ、皆さんとこれからも前向きな気持ちで新しい学校づくりに微力ながら参加させていただきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

委員

娘も新しい校歌を家でも歌っていて、もう替え歌にまでして、子どもはそういうのが本当に早いなど。自分が最後、6年生のときに新しいところで卒業ということ誇らしくも感じている一方で、この前、閉校式があったので、その後、「もう本町田小は今日からないの」と。まだ3月いっぱいあるよと言ったら、それはすごくほっとして。なので、本町田小学校を好きだという気持ちもすごいあるし、新しい学校への期待も両方持っていることをちょっと安心している。

あとは、すごく小さい子たちが近所に結構いて、そこのご家庭は、今後、小学校になったときにすごく遠くなってしまおうので悩まれている方がたくさんいるので、そういう方たちに安心を伝えられるようになるといいなというのは、いろいろな情報を得て、安心も得た上で自分のベストを決められるような状態のことを話せるような先輩お母さんになればいいなと思っている。

委員

私ごとだが、小学校は横浜に住んでおり、横浜市立日野小学校、これはもう既に150年を超えるが、一方では、20年ぐらいで統合されていく学校、150年過ぎて、まだまだこれからも続くという学校が、そんな世の中の差があるんだなというのは、もうつくづく感じている。

私は、本町田小学校にいろいろお話、ボランティアその他で伺っており、17年になる。逆に言うと、本町田小学校だけしか、この辺では知らないが、60を過ぎてからの、長い付き合いにはなるが、原小と西小と緑小の3つの学校が統合されて本町田小学校になる。その本町田小学校しか私は知らないが、とにかく評判のいい学校ということで、統合自体がとても残念だとは思っているものの、これ以上にそれを越えて、脱皮じゃないが、きれいな羽が生えて大空へ飛んでいくという新しい学校が、またここで3校統合されてできるんだなと。本小を超えるすばらしい学校に、またきつとなるというふうに固く信じている。

委員

私は、本町田小学校で副校長に初めて着任しまして、今年で3年目になる。本当に右も左も分からない中で始めて、こういう閉校という学校に着任させていただいて、先日、閉校式を挙行することができた。

中には協議会委員の方にも来ていただいて、本当に感謝申し上げます。今回、閉校に当たり、本町田小学校の歴史を私なりに1回読み返してみたが、本当に地域に愛された学校だったなと感じているところ。と同時に、やっぱり学校を1つ閉めるといいますか、閉校を迎えるというのは本当に大変なことなんだなというのを改めて感じた。

東小ももちろん同じことだと思いますし、と同時に、来年度に向けての動きといいますが、そういったところももう動き出していて、本当に慌ただしく今も日々を過ごしているが、ここでいろんなご心配はあると思いますし、教員としても、当たり前だが、初めて閉校とか新校を迎える教員なので、そういう人たちも心配はあるが、

心配心配と言っている、もう本当にしょうがないなと思いますし、本当に先を見据えて、ここにいらっしゃる方々のいろんな思いをお聞きしまして、また私も、まずはこの3月終わりまで、来年度に向けての準備等々を職員一同しっかりやっつけていかなきゃいけないなと、今日も改めて思った次第である。

委員

私のほうは、この協議会は検討会のおきから、副校長のおきから恐らく4年間ぐらゐ、そして協議会にも携わらせていただいて、学校を閉じるといふこと、それから、新たな学校をつくるということに教員としてこういう形で、管理職という立場で携わらせていただくといふのは、正直言うと、滅多にないことだと思ひますし、滅多にといふか、恐らくなかなか経験することができないことだと思ひて、何とか先週、無事に終えたことをほっとしているが、教員にもそのことは、やはり同じように言ひて、学校を閉じる年に、例えば6年の担任をするなんてなかなかないよといふ話をし、結構背中を押してきた。実を言ふと、私は初任の学校で学校統合の学校に着任して、6年生を卒業させて、その年、閉校して教員経験を積んできた。

よもや管理職としてこういう形になるとは思ひていなかったが、まずは無事閉校式が終わってほっとしているところだが、ただ、やはりこの4年間、こういう会に携わっていて、生みの苦勞といふこと、新しいものをつくり出していくということにすごいエネルギーが必要なんだといふこと、もちろん、今ほっとしているが、先ほど副校長が言ひたように、まだまだこれから4月に向けてといふところは全力で進まないといけない、来年度以降のこの協議会といふのは、恐らく今度はきちっと箱をつくっていく話が中心になっていくと思ふが、計画の段階でもそういった議論があつた。

ぜひそれをさらに向こう3年間の教育活動を見据えながら、変更もまた余儀なくされる部分もあると思ふが、また皆さんの力をそういうところで発揮していただき、いい2028年、新校舎での本町田ひなた小学校のリスタートを目指していただければいいかなと思ひている。

委員

皆様の話を聞きながら思ひたこと、やはりこの3校といふけれども、先ほど委員からあつたとおり、本町田西、それから原小、緑ヶ丘小を入れれば6校が一緒になるといふこと。歴史を考へてみれば、できたときには、わあ、人口がどんどん増える。町田はこれからどんどん発展するなといふ希望に満ちた学校だつたと思ふ。

私がここで委員になつたときに最初に言ひた言葉を思ひ出した。でも、今度できる本町田ひなた小は、地域にもう一度戻ってくる学校、つまり、通学路も校歌も校章も、本当に地域の人たち一つ一つの声を大切に、地域の学校にしていく。本町田地区の本当に唯一の学校として戻ってくるといふことだと思ひている。だからこそ、皆様のとっても大切な声になっているんだと思ふ。

私たちが次に信じるのは、子どもたちのすてきな力。つまり、今まで私は当たり前で見ていたのが、子どもって転入生が来ると素直に喜ぶ。やったと。でも、その心を、そうか、1人じゃない、みんなとみんなですてきというふうにつなげていくこと、このほうが絆としては強くなる。そういう新たな出会い、そして新たな希望を生み出す学校になっていってくれたらなと思う。

だからこそ、最後の町三小が一緒になったときに本当に燃えるんだろうなという、その日を見てみたいなと思った。だからこそ、子どもたちの、先ほどの委員の言葉じゃないが、最後の何々、最初の何々、子どもって天才だなと思った。悲しいけれども、希望をそこに見いだす、私が子どもの頃は、つまんなかったら遊びを生み出すみたいなものだったが、子どもって日々そうやって生きていくんだな、すてきななと思った。

来年度からひなた小は始まりますが、まだまだ町三小を迎え入れる準備の部分がある。皆様のお力が必要になる。また来年度もよろしくお願い申し上げます。